

交流授業の感想文

(2014年度)

朝鮮学校の子供たちが名大を訪問してくれた日、僕らの班は名大図書館と名大生の憩いの場である中央の広場を案内しました。子供たちは名古屋大学の広さ、名古屋大学の学習環境のすばらしさを実感してくれたと思います。そのあと、工学部棟を案内して、その新しさや最先端技術の一片に触れてもらいました。子供たちはもちろん、朝鮮学校の先生も驚いていて、名大のようなすばらし学習環境を有した大学に子供たちが通いたいとおもってくれれば、と話していました。そして最後に豊田講堂を見学し、講堂前の芝生で子供たちと鬼ごっこを通じて交流を深めました。子供たちが日本人の大学生のお兄さんお姉さんが大学の魅力を伝えてくれて、仲良く遊んでくれたというふうに思ってくれて、少しでも記憶に残ってくれればいいなと思います。僕らや朝鮮学校の子供たちのような若い世代が日本と韓国の橋渡しとなれるようにお互いの文化を尊重し、先代によって築かれた壁を壊していかなければならないと強く感じました。

また、朝鮮学校の卒業生が話をしに来てくれた日に僕が感じたことは、今の在日朝鮮人の何世代目かの子孫たちが日本のことを悪く思っておらず、むしろ日本のなかで、朝鮮人としての居場所を望んでいるだけで、日本との関係改善を強く願っていることでした。また、朝鮮人としての誇りをもち、自分たちの祖先の文化や言語を大事に継承していこうとする意志を感じました。日本に生まれ日本で育っても、祖国の文化を学ぼうとする姿勢は日本の学生であったら見られないようなことなんじゃないかなと感じました。また、日本国内における朝鮮人の権利獲得問題においては、日本人ながら恥ずかしく思いました。なぜ日本の戦争がまいた種を日本が回収してやらないのか、なぜ日本に住み日本人との関係を大事にしていこうと考えている朝鮮人にだけ冷淡な姿勢を見せるのか。在日朝鮮人に対して申し訳なく思いました。

二回の在日朝鮮人との交流を通じて、在日朝鮮人の権利獲得への努力と自らの民族文化を学び理解しようとする姿勢、そしてなにより、日本で朝鮮人としての誇りをもちつつ、新たな時代にむけて日本人と協力しあっていこうとする考え方に実際に触れることができ、これまで漠然としていた日韓関係を自分のなかで見直すよい機会になったと思います。

(2015年度)

在日朝鮮人の方々にお会いして、今まで私が持っていた様々なイメージが大きく変化した。私は今まで在日朝鮮人について全く知らず、偏見しか持っていなかったと思う。し

かし、朝鮮学校出身者や朝鮮学校に現在通っている小学生の話聞き、在日朝鮮人に対するイメージや考え方が180度変わったと思う。

日本の大学に通う在日朝鮮人の男性の話詳しくお聞きして、この方は強いなという印象を持った。彼は、中学生の時に初めて自分は朝鮮人であるという事実を知り、それまでは日本の名前で生活し自分は日本人だと思って過ごしていたそうだ。しかし、親からのカミングアウトを受け、だんだんと自分の祖国のことをもっと知りたいと思うようになったとおっしゃっていた。もしこれが私自身だったら、そんなこと知りたくないと思うかもしれないし、このまま隠して生きていきたいと思うのかもしれない。自分のアイデンティティが分からなくなり、多くの葛藤が生じると思う。彼自身がどのような過程をたどってきたか詳しくはわからないが、それらを乗り越えて今は在日朝鮮人として積極的に色々な取り組みをする彼の強さを感じた。

本当は自分が在日朝鮮人であるということを知らずに、あるいはそれを隠して日本で生活する人が大半であるという話にはとても驚いた。それほどマイノリティの人たちにとって日本の社会は生きにくいものなのだと改めて感じさせられた。このような社会における不平等をなくすために、在日朝鮮人としての地位を確立するために、彼らは積極的に活動しているというのを知り、私たち日本人もそれに応えなければならないと思った。

朝鮮学校に通う女子小学生と名古屋大学をまわった時には朝鮮学校の実態や、卒業後の進路について話を聞いた。朝鮮学校は日本の小学校と似ている面も多かったが、独自の制度も多くあった。特に部活動や言語教育に驚き、日本と朝鮮の両方の文化や言語がうまく調和された学校だと感じた。

この方々にお会いして、同じ日本で暮らす者として私は何をすべきだろうかと考えた。まずは在日朝鮮人に関する情報や知識を十分に得ること、関心を持ち続けることが必要なのではないかと思った。今回の経験は自分の考えが大きく変わる良い機会になったし、今後の学習や取り組みにも活かしていくべきものだった。